

【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	知多地区家庭教育支援チーム (呼称 SmileyDream) URL: NPO 法人 SmileyDreamHP http://smileydream.web.fc2.com/ FB ページ https://www.facebook.com/NPO.SmileyDream/
活動開始年度	平成21年度
活動拠点	NPO 法人 SmileyDream (愛知県知多郡武豊町金下 3-43)
活動範囲	知多半島全域
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(学校・家庭・地域の連携協力推進事業) <input checked="" type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input checked="" type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 ()
組織体制	15 人 子育てネットワーク7名 愛知県子育て支援員 2名 保育士 1名 保健師 1名 愛知県男女共同参画人材育成セミナー終了生 2名 公益社団法人 誕生学協会認定 誕生学アドバイザー 1名 一財)日本幼少年体育協会 幼児体育指導者 1名
具体的な活動内容	受託事業 ◇武豊町生涯学習課 子育てリフレッシュ講座 1 時間半の講座を年 5 回 前半はバランスボール、アロマ、個性心理学、カラーセラピーなど 後半は愛知県教育委員会作成「あいっこ親の学び学習プログラム」 を用いてワークショップ (写真:バランスボールで体もリフレッシュ) 

(写真:あいちっこ親の学び学習プログラムでワーク)



◇東海市社会教育課 地域の繋がりをつくる家庭教育講座開催事業
4回の連続講座 未就学児の子どもを持つ保護者対象
子育てを通して地域との関わりについて学びながら、家庭教育の重要性を伝え、保護者が主体的に地域に関わることを促す

◇東海市女性・子ども課 児童館活性化支援事業
児童館の厚生員が子どもの自立に目を向け、各児童館の特色を活かした企画運営のスキルを身に付ける

(写真:月1回モデル児童館訪問ワークショップ)



(写真:年1回 モデル児童館発表&課題提案ワークショップ)



◇東海市女性・子ども課 男女共同参画啓発事業
20~40代の子育層に向けて、男女共同参画の啓発を行う
啓発誌作成 A5サイズ P24 1000部
託児付きセミナー開催 子育て中の保護者または子育て支援者 50名
講師による講演と参加者によるワークショップ

(写真:参加者によるワークショップ)



◇東海市女性・子ども課 育児休業中の子育て支援事業
年2クール6回の連続講座 第1子育児休業中の女性が対象
託児付き 20組(2/6回は父親も参加)
仕事復帰に向けての支援事業
ワークライフバランス(夢・仕事・家事・子育てのバランス)

(写真:復帰後の子どもとのコミュニケーションについて)



(写真:夫婦で30年後を考える)



(写真:子どものアルバム作りをしながらママ同士の情報交換)



自主事業

◇子育て中の女性の社会参画支援

起業支援

子育て支援者養成(講座・セミナー開催など)

男女共同参画人材育成

(写真:拠点)



(写真:左がキッズスペース、右がスマイリー文庫)



◇ママサークル HappySmileys 運営(毎月第2, 4金曜日 10~15時)



◇児童虐待防止・啓発活動(相談窓口)

オレンジリボン登録団体

イベントにて啓発グッズ配布

武豊町ネグレクト事件概要掲示

子育て相談

(写真: 児童オレンジリボン啓発事業 めりえコンテスト)



◇Mama ふえすた開催(参加者 3000 名程度)

子育てママの活動支援
地域の子育てママ&パパの交流促進
児童虐待防止啓発



◇学生キャリア教育

大学生・高校生・中学生の職場体験受け入れ
授業への講師派遣
日本福祉大学サービスラーニング受け入れ
(写真: 島の子育て支援について学ぶ in 日間賀島)



他リーフレット・HP 掲載

<p>活動を通して感じていること (成果、課題など)</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域の人材育成(セミナー・講座終了生) 主体的に支援者として活動している(県や市町の子育て世代の代表として審議会など会議への出席者に) ◇地域の子育て支援団体養成 支部会を設けることで各自治体での活動団体として活動できているチーム構成員による団体設立 ◇リアル子育て世代の家庭教育啓発 家庭教育は普段の生活の中で意識や視点を変えるだけで格段に成果が出る。ポイントをSNSで発信し、各団体のリーダーに実施要請することで、家庭教育の重要性を伝えることができるようになった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇チーム構成員が子育て中の女性のため人材が流動的 ◇変化の早い社会情勢にあった家庭教育指導の認識・知識不足 ◇子育て中の保護者の地域参加意識の低下 ◇家庭教育が堅苦しく捉えられがちで啓発しにくい
------------------------------------	--